

今週の為替相場見通し(2025年7月7日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ	
		注	レンジ	終値		
米ドル	(円)		142.69 ~ 145.27	144.61	142.00 ~ 147.00	
ユーロ	(ドル)		1.1708 ~ 1.1830	1.1788	1.1500 ~ 1.1900	
(1ユーロ=)	(円)		168.46 ~ 170.54	169.92	167.00 ~ 172.00	
英ポンド	(ドル)		1.3563 ~ 1.3787	1.3650	1.3300 ~ 1.3800	
(1英ポンド=)	(円)	*	195.37 ~ 198.46	197.17	189.00 ~ 199.00	
豪ドル	(ドル)		0.6523 ~ 0.6590	0.6553	0.6450 ~ 0.6680	
(1豪ドル=)	(円)	*	93.97 ~ 95.37	94.72	93.00 ~ 96.50	

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

国際為替部 為替営業第一チーム 大島 経貴

(1)今週の予想レンジ: 142.00 ~ 147.00 円

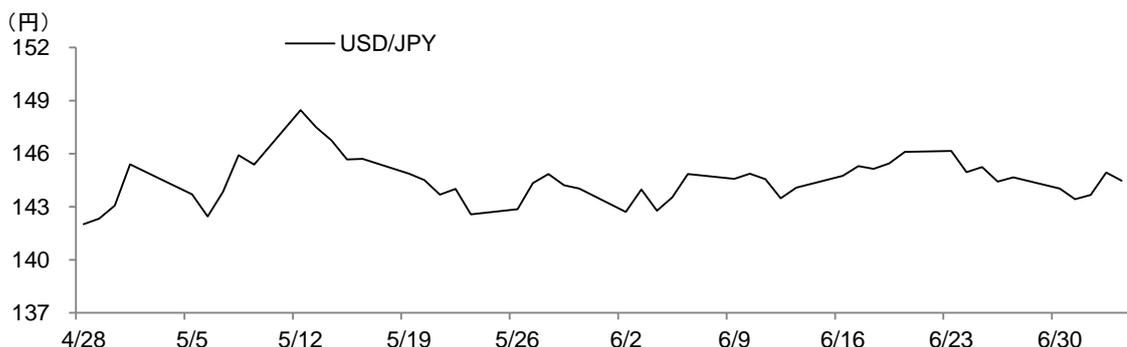
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

週初6月30日、144.51円でオープンしたドル/円は、仲値後からじりじり値を切り下げる展開。海外時間入りにかけては米金利低下につられ一時144円を割り込む場面も。7月1日、本邦4~6月期日銀短観の良好な結果を受けドル/円は下落、海外時間も続落し週安値となる142.69円を付けた。その後は米6月ISM製造業景気指数や米5月JOLT求人件数が市場予想を上回ったことが好感され、143円台後半へ反発した。2日、前日NY時間からのドル高地合いを引き継ぎ144円台へ上昇。NY時間発表の米6月ADP民間雇用者数が市場予想を大きく下回ると早期の米利下げが意識され、143円台半ばへ反落した。3日、米6月雇用統計を控え143円台後半での小動き。発表された米6月雇用統計が市場予想比堅調だったことを受け、7月FOMCでの利下げ期待剥落とともに、週高値となる145.27円まで急騰した。4日、米国が休日の中で動意薄い推移の中、トランプ米大統領が関税に関する書簡の送付について言及したことが重しとなり、144円台前半まで下落。結局、144.61円でクローズした。

今週のドル/円はじり高の推移を予想する。堅調な米6月雇用統計の結果を受けて、7月の米利下げ期待は剥落しており、ドル/円の下支えとなるだろう。今後の米金融政策を占う意味では、改めてFed高官の姿勢を確認する必要がある。9日にFOMC議事要旨(6月会合分)が公表される。また、同日に米相互関税に関する上乘せ部分の再導入期限を迎えるものの、日本を含め多くの国とは交渉妥結に至っていない。対日交渉でもトランプ大統領が米や自動車の輸入に関する不満を表明しており、参院選挙前という政治的事情も絡み交渉の難航が伺える。しびれを切らしてかトランプ大統領が一部の国に対して一方的に関税を設定する通知を送ると発表も、その後ベッセント米財務長官が期限までに合意がまとまらない一部の国には3週間の交渉期限延長の選択肢が与えられると発言、予断を許さない状況が続いている。日本を含め、主要国に交渉期限延長が適用されれば、リスクオンからドル/円は円安方向への動きになるだろう。一方で株高が続くなど、市場は関税交渉に関し楽観的なシナリオを既に相応に織り込んでいたと考えられ、ドル/円の上昇余地は限定的になると考える。

(3)先週末までの相場の推移

先週(6/30~7/4)の値動き: 安値 142.69 円 高値 145.27 円 終値 144.61 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

国際為替部 為替デリバティブチーム 部坂 洋太郎

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.1900 167.00 ~ 172.00 円

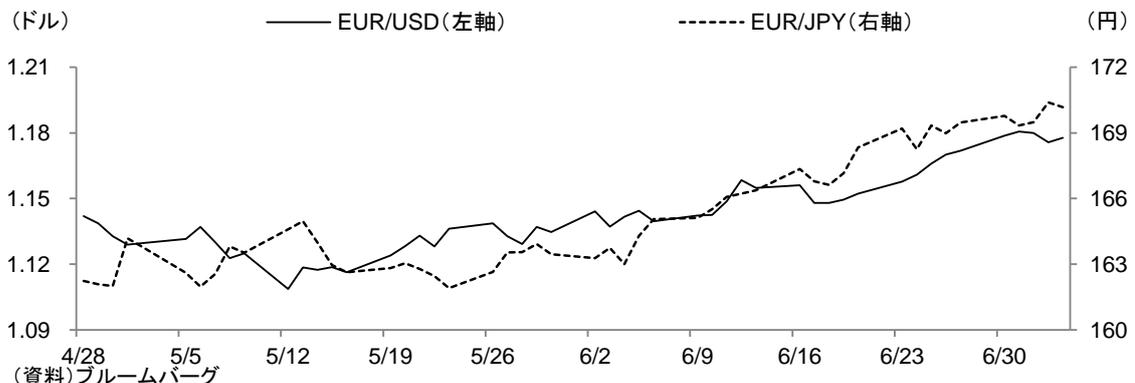
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは小幅上昇となった。週初6月30日、ユーロ/ドルは1.1728でオープンしたのち、米国時間に米6月シカゴPMIが予想を下回る結果となったことや米金利の低下を背景にユーロ/ドルは1.1789まで上昇となりそのまま高値圏でクローズ。7月1日、ロンドン時間に約4年ぶりとなる1.1830まで上昇するも、その後発表された米6月ISM製造業景気指数が予想を若干上回る結果となったことや、米5月JOLT求人数が強い結果となったことを受けて値を戻す展開となり、ユーロ/ドルは1.1807でクローズ。2日、ユーロ/ドルは英ポンドの下落に引きずられる形で1.1747まで下落するも、米6月ADP雇用統計の弱い結果を受け1.1800まで値を戻してクローズ。3日、注目された米6月雇用統計の強い結果を受けて、一時は1.1717まで下落するも、その後は1.1750を挟んだ狭いレンジでの推移となった。4日、米国祝日で流動性の薄い中、トランプ米大統領が関税に関する書簡を送付するとのヘッドラインでドル売が進んだものの方向感のない値動きが継続し、1.1788で越週となった。

今週のユーロ/ドルは、上値が重い展開を予想する。目先は関税関連のヘッドラインに振らされる展開となり、9日に期限を控える米相互関税の上乗せ部分に関する一時停止措置が期限を迎える。4日(金)に米国は各国に関税措置に関する書簡を送付したとのヘッドラインが出たが、関税による交渉がうまく纏まらない場合はドル安の展開となり、ユーロ/ドルは上昇しやすい展開となるだろう。ただし、足許のユーロの上昇は急ピッチであり、米国の利下げに関しても先週の米雇用統計の結果を受けて利下げ見通しが後ろ倒しとなっている。また、IMM通貨先物取引に関するユーロのポジション状況もネットで買い越しとなっている状況下、ポジション調整が入りやすいことも上値の重い展開となるのではないかと。今週の経済指標の予定は7日(月)にユーロ圏5月小売売上高が予定されている以外は、特に目立った経済指標の発表は予定されていない。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(6/30~7/4)の値動き: (対ドル) 安値 1.1708 高値 1.1830 終値 1.1788
(対円) 安値 168.46 高値 170.54 終値 169.92



3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.3300 ~ 1.3800 189.00 ~ 199.00 円

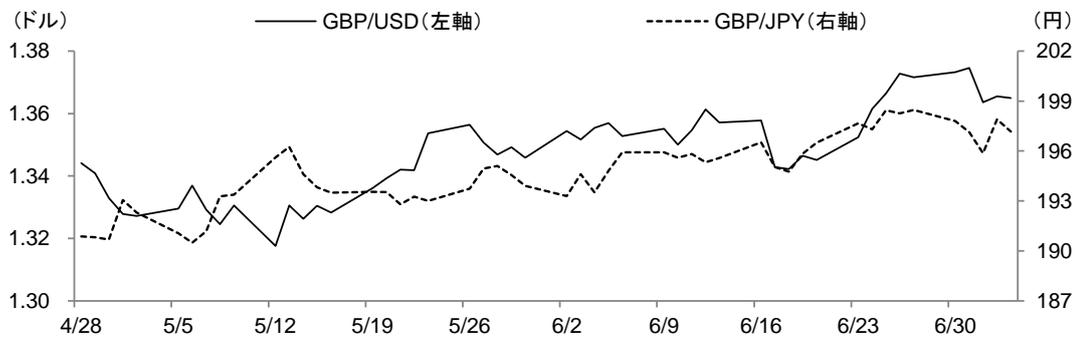
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間のポンド相場は対ドルで下落した。1日、米10年債利回りが節目である4.2%レベルを一時割り込み、2か月ぶりの低水準まで下落したことで全体的なドル安となった。その後、市場予想を大幅に上回る米5月JOLT求人件数で短中期債が売られ反発し巻き戻された。2日、英与党・労働党内における造反によって改革案が相次いで撤回されたことを受けてリーブス英財務相の辞任観測が広がり、英国債が売られながら英ポンドが大きく下落した。3日は前日の下落から反発した後、米6月雇用統計が市場予想を大きく上回り、一時全体的なドル買いとなるもすぐに巻き戻された。4日は米国休日の中、方向感なく推移し週末に渡った。

今週の英ポンドは上値重い推移を想定する。上述した英財務における不透明感の再熱から英国資産に対するリスク回避の動きが出ており、基本的に英ポンドは買われづらくなっているように思う。根本としては歳入を確保しつつ増税を避けるために企業負担を増やした結果、雇用が悪化する結果となり、中期的な成長のブレーキとなっている。その中で今回、歳出の制限案が次々と撤回されたことで財源確保が難航しており、今後国債の発行増額の可能性が増している。経済指標という観点では特段注目されるものは見当たらない。オプション市場のインプライドボラティリティを見ると上下に220pips程度の値動きを織り込んでいる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/30~7/4)の値動き: (対ドル) 安値 1.3563 高値 1.3787 終値 1.3650
(対円) 安値 195.37 高値 198.46 終値 197.17



(資料)ブルームバーグ

4. 豪ドル

国際為替部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

(1) 今週の予想レンジ: 0.6450 ~ 0.6680 93.00 ~ 96.50 円

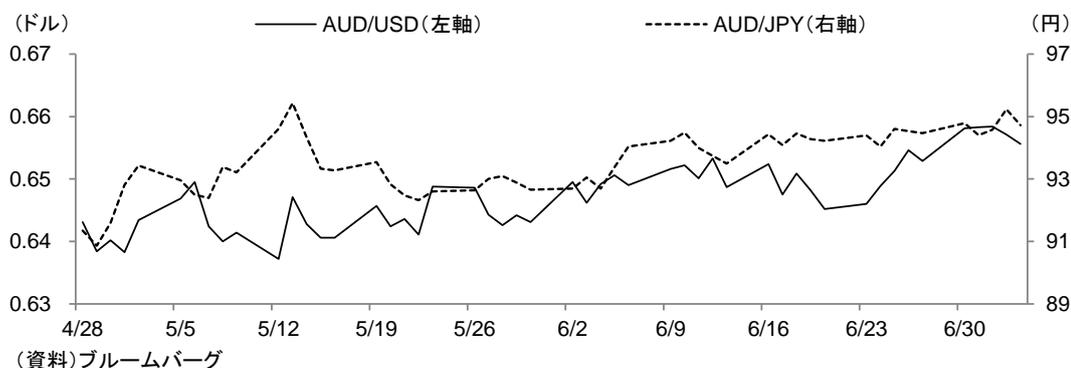
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

週初6月30日の豪ドルは0.6533でオープン。一時、週間安値となる0.6523まで下落する場面も見られたが、徐々に進行していく米国の利下げ織り込みや米株市場の堅調な推移を背景としたドル売りに、豪ドルはじり高の展開。0.65台後半まで水準を上げた。7月1日は前日の流れを引き継ぎ、一時週間高値となる0.6590まで上昇。ただ勢いは続かず、その後は米5月JOLT求人件数などの好結果を受けたドル買いに上値は重く推移した。2日は豪5月小売売上高が予想を下振れた結果となるも反応薄。その後英国の財政懸念を発端とした米金利の上昇でドル買いが進み、0.65台前半まで下押しも、米6月ADP雇用統計の下振れを受けたドル売りで0.65台後半まで上昇するなど、明確な方向感は見出なかった。3日は豪5月貿易収支が2022年8月以来の低水準となり、多少豪ドル売りが強まる中、大きな影響は出ず。その後米6月雇用統計の予想比良好な結果に、0.65台前半まで急落するも、米株市場が大幅に上昇するなどリスクオン寄りの動きに、ほどなくして元の水準まで値を戻す展開となった。4日は米国休日で市場参加者も限定的で欠いた値動き。0.65台半ばを中心に移し、0.6553で越週した。

今週の豪ドル相場は底堅い推移になることを予想する。8日(火)にはRBA理事会の結果が公表予定。前回会合時はブロックRBA総裁の発言で▲50bp利下げが検討されたことが明らかになるなど慎重姿勢が示されたが、それ以降の豪国内は、豪5月CPIではインフレに鈍化が見られ、2日(水)の豪5月小売売上高も予想を下回るなど、引き続き金融緩和を後押しする材料には事欠かない。今回会合では▲25bp利下げがコンセンサス。注目は声明文やブロック総裁の会見内容で、上述の国内状況、米国の関税政策を中心とした不確実性が残存している点を踏まえるとハト派的な内容が想定されるが、利下げも含めて織り込み済みな部分も多く、影響は限定的と考える。他方米国は、米6月雇用統計の予想を上回る結果を受け、直近7月会合での利下げ織り込みが剥落する一方で、Fed高官の早期利下げに言及した発言や9日(水)に迫る追加関税延長期限到来後の不透明感を理由に、ドル買いが持続する展開とはならなかった。トランプ米大統領が複数の国へ関税率を通知する書簡を送付したことが明らかになっており、該当国は現状不明も、関税の引き上げによるグローバルな景気後退懸念や米国に対する信認不安を受けたドル売りが、豪ドル相場のサポートとなる展開を想定しておきたい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(6/30~7/4)の値動き: (対ドル) 安値 0.6523 高値 0.6590 終値 0.6553
(対円) 安値 93.97 高値 95.37 終値 94.72



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。